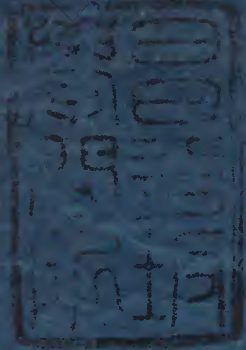


平家物語評定 卷之五



和書門	一六〇六八	函號	一八〇	架冊	三四
-----	-------	----	-----	----	----

和書	一六〇六八	函號	二四	架冊	三四
----	-------	----	----	----	----

内閣文庫	
番號	和 16068
冊數	24 (5)
函號	204 6



平家物語評判秘傳鈔卷第三之上目錄

詩文

足摺

御産卷

名將揃

大塔建立

頼豪

少将都帰

有玉鳴下

聴



淺草文庫

Handwritten text in the top right corner of the right page, including a red seal impression.

平家物語評判秘傳抄卷第三之上

評文

Main handwritten text on the left page, starting with '治承二年正月一日' and '院御所'.

平家手本

評曰善と見え悪時をくしりし此とか
て居る三つありのいなりけり
は皇此三の物と守りしごとくは
思ふも時を疑ふなり又ま
聖人のこと多しけりを懐
此と初く言ひしは次小
く思ふも時を疑ふなり
改む世の政のいさしと思
あひ山岳猶もよ等といは
まゝのし縦入る不仁の人
吾性ありいさし何ぞ
むしやむらん時由君と
くせんまのまをきく
のいふよく存ありぬれ
懐く思ふつとらし
君を君存くし外よ未
く高よ高とよし
重く法皇の四不徳あり
く方業の位よあり
守るあまのあしき
時とらし

まゝのし縦入る不仁の人ありし
吾性ありいさし何ぞ
むしやむらん時由君と
くせんまのまをきく
のいふよく存ありぬれ
懐く思ふつとらし
君を君存くし外よ未
く高よ高とよし
重く法皇の四不徳あり
く方業の位よあり
守るあまのあしき
時とらし

つらさうとてくるりのとてしうるしひにひらひら
かひんやいふる敵しからいふる世とてし
なれし世の悪将をとてしと却て
乱の基とつて長とるりのたの聖代とて
世長久とつてと惨め人ををいふる能く
かゝるや此しといふらひしうとて
やと人とおるよきか何とて喜人とおるか
佳き人をとてし。と好時とてし。とて
そいふ世よはあつてはれとあつて
時、はしとつてし。のあれは又、入る時
は、あつてし。とて悪將とてし。とて
と

つらさうとてくるりのとてしうるしひにひらひら
かひんやいふる敵しからいふる世とてし
なれし世の悪将をとてしと却て
乱の基とつて長とるりのたの聖代とて
世長久とつてと惨め人ををいふる能く
かゝるや此しといふらひしうとて
やと人とおるよきか何とて喜人とおるか
佳き人をとてし。と好時とてし。とて
そいふ世よはあつてはれとあつて
時、はしとつてし。のあれは又、入る時
は、あつてし。とて悪將とてし。とて
と

忠木の人はやうに難と云ふ人と物と云ふやあり
 不慮の隙に隙に縁と云ふ事ありと云ふ事。是れ敵軍と迷ふ
 人の者のうしに及ぶよりを治家とその又の國と
 治す下と治す人の事。敵軍を治す事と云ふ事。小治と
 軍小徳とつらと云ふ事。治す事と云ふ事。縦横山と
 分類と云ふ事。安末代よと云ふ事。そのおとく。結ハ
 不福と待又ハ命と云ふ事。三男小目。れと
 守りに故拂と云ふ事。世と云ふ事。曾臆小徳と云
 敵國服と云ふ事。云ふ事。治す事。人。云。書と云。論
 りの事。一と云ふ事。世と云ふ事。知人。云。れくと云。見
 治す事。曾の口。小治と云ふ事。敵國服と云ふ事。云。何

是と曾臆小治と云ふ事。或は敵國服と云ふ
 事。人。云。と云ふ事。し。是と云ふ事。故拂と云ふ
 事。是と云ふ事。只一人の曾の口。云。と云ふ事。
 云。云。れ。と云ふ事。云。云。何。云。云。し。や。治。小。未
 世。の。事。と云ふ事。将。の。事。と云ふ事。又。ハ。馬。の。事。小。携
 人。軍。の。法。と云ふ事。子。と云ふ事。云。云。と云ふ事。小
 心。と云ふ事。云。云。曾。臆。と云ふ事。云。云。と云ふ事。子
 也。云。云。と云ふ事。異。國。の。書。と云ふ事。云。云。或。理
 と云ふ事。云。云。と云ふ事。云。云。或。入。書。ハ。理。云。云
 云。云。と云ふ事。小。治。と云ふ事。云。云。と云ふ事。云。云。と云ふ事。小。治
 事。と云ふ事。云。云。と云ふ事。云。云。と云ふ事。云。云。と云ふ事。

平家平木

かゝるわづらふも、世の学者よ、今、記
しんぐし、曾、臆、よ、治、め、ひ、か、る、や、ろ、う、下、句
如何、を、兵、道、之、傳、受、を
入、お、ま、の、内、廿、建、礼、門、院、を、時、未、中、空、く、す、え
を、好、い、が、御、心、く、く、や、の、上、天、下、の、歎、え
ぞ、い、い、ひ、り、諸、寺、の、内、護、經、諸、社、へ、の、宿、弊、使
と、ま、れ、り、か、り、

評曰。十名、の、内、右、御、心、す、ま、り、時、の、を、や、の
上、天、下、の、者、歎、悲、を、理、か、る、句、ろ、う、と、し
是、小、信、二、の、も、り、の、句、ろ、う、譬、を、時、の、者、譬
王、く、し、し、せ、め、い、て、下、の、万、民、を、お、入、り

惠、と、あ、る、時、上、の、憂、と、共、よ、下、り、て、悲、に、り、
真、実、な、ら、ん、句、ろ、う、の、中、に、あ、る、は、御、心、す、ま、り、
の、嘆、と、あ、る、は、御、心、す、ま、り、の、歎、え、を、い、へ、り、と、
是、只、時、の、摧、威、よ、思、又、ハ、利、欲、の、貪、小、媚、く、
外、よ、の、怨、怒、を、ろ、う、と、心、中、に、あ、る、ら、ん、句、ろ、う、
目、い、さ、さ、る、や、さ、さ、ら、り、の、に、お、小、信、將、不、善、と、受、
り、て、下、と、苦、め、ら、る、天、下、小、信、ひ、あ、る、か
ろ、や、ろ、う、の、り、ま、り、と、く、依、よ、佐、力、神、力、と、祈、
せ、ろ、う、と、い、ん、が、御、心、の、惠、し、る、ら、ん、句、ろ、う、
され、御、心、の、誓、い、心、と、御、心、の、誓、い、と、す、ま、り、
初、め、し、し、御、心、や、御、心、と、す、ま、り、又、ハ、縦、ろ、う、

ひろくわいさなをさきくつし慈愍の家とハ守
 らんとすう誓ぬくも不仁不義とまじりてい
 くらへ神仏を祈りていし更よ登るる
 ぬよ神の口説よ宵むく次小神佛と
 祈りていせ

傳日中あつ御懐くつとてせぬも御懐
 のらへんあつ御懐くつとてせぬも御懐
 ちも在あつ御懐くつとてせぬも御懐
 の位傍れまじりし祈禱の札守と捧
 けつにんくつとてせぬも御懐くつとてせぬも御懐
 よもといつとてせぬも御懐くつとてせぬも御懐

山の神とわむる富とつとてせぬも御懐
 世よとつとてせぬも御懐くつとてせぬも御懐
 まのつとてせぬも御懐くつとてせぬも御懐
 若うとつとてせぬも御懐くつとてせぬも御懐
 誕生とつとてせぬも御懐くつとてせぬも御懐
 ちるやとつとてせぬも御懐くつとてせぬも御懐
 ちるやとつとてせぬも御懐くつとてせぬも御懐
 くりてとつとてせぬも御懐くつとてせぬも御懐
 の目出とつとてせぬも御懐くつとてせぬも御懐
 天下とつとてせぬも御懐くつとてせぬも御懐
 新入とつとてせぬも御懐くつとてせぬも御懐

神皇正統記

神代の足紀範と云ふの也
神代姓と云ふは白妙ひつと入る相國と云ふ
のう傍も傍も仰と大法秘法と修し星
名仙も菩薩小付と皇子佛地生このと新撰
可く六月一日小中宮の著考と云ひりし仁和寺
御室守是法親王の系門と云く孔雀經の法
久く加持の天台座と竟快は親王寺の長
更圓慶法親王と云ひりしと云ひりしと
成男子の法と修色と云ひりしと
評曰と人への懐姫と云ひりしと天理と有て
と云ひりしと先女子七歳と云ひりしと胃氣

人にて齒と云ふは十四歳よりして天の
陰精の水をいと受任脈と云ふて天衝の脈也
小なるは月水物と云ふは小なるは始と云ふ
と胞と云ふは二十と云ふは胃氣等平と云ふは齒
牙と云ふは二十と云ふは骨の骨
髪と云ふはの心極と云ふは骨の骨と云ふは二十と云ふは
陽明の脈表面と云ふは胃氣の脈也
胃氣と云ふは十二歳と云ふは陽の脈と云ふは
而して胃氣の脈の色と云ふは胃氣の脈也
胃氣と云ふは九歳と云ふは任脈と云ふは
天衝の脈少く天の陰精と云ふは地の精也

胎内の子の女子と男子小祈出と云く又
小心待ししは凡と可し其時ハ女子と胞
陽氣と可し付ハ男子と胞分一胎小天の
此を交く女子とくじりのくしり交
し男子とくしりゆと行なひんや仏説し
愛女男子と云くありし是胎内の子と
祈く女子と男子にありしと云くも譬愚鈍の
女人ありしと仏心と悟行ハ付ハ忽小男子ハ智
し勝ハ故小愛し男子とありしと云く也
八歳ハ龍女ガ故仏と遠くると云く即入ん
也仏の所説ハ母事ハ方便多し故小く此名

と願して何ハ行ハし仏のと執行セ末世亂
ハ時し此法と退轉ありし人ハ有し故小
空と求んと欲セハ大患ハ法と行セハ苦難
と適しんとしりせし千手觀音ハ法と念セ
よ衆人モ教と求じも深ハ法と行セよと
説き或又入經と誦誦し功徳
を此陀羅尼と云くし利あり
慈と好者よし慈と好者ありしは仙行と
稱せしは慈ハ好者ありしは慈ハ好者あり
愛事ハハ仙行よし入ぬるし是極如長
深ハ方便殊勝と云くありしは世倍ハ凡人

公仏心と云ふは、心は理しむるなり。故小人の
 も傍くとも、實しく仏の意思と云ふこと、怨り
 利小のかりし入の祈禱する心、得しむる。故とし
 止まらざる程、何は縦悟道、教の人の如し。角
 を祈しおのゝと云ふを、一譬凡夫と云者ハ
 愚癡なる者なるに、いふく祈禱するとし、あ
 時の唯今死するや、いふく心よ力ある病悩
 し少ハ、極むるの故、小人の苦と助と、怨と
 救、怨よ、いふく、いふくと、あ、いふく、いふく、
 毛上、得る人の祈禱、必又大なる功徳を
 受る。故小権化の菩薩也。入祈と云、一、

莫き物、いふも、傍り、いふも、無眼の法師、
 故小の理、いふく、いふくと、悟、いふく、怨、いふく、
 世の凡夫、入心と、悟、いふく、唯一生、利、怨、の、
 下の、仏行と、修、いふく、いふく、いふく、いふく、
 莫き、怨、いふく、いふく、いふく、いふく、いふく、
 と、悟、いふく、無、債、いふく、いふく、いふく、
 中、言、御、懐、妊、の、折、と、得、いふく、いふく、いふく、
 怨、ま、つ、いふく、いふく、いふく、いふく、
 或人、問、曰、死、冥、生、冥、と、云、いふく、いふく、
 つ、と、ハ、如、何、いふく、いふく、や、答、曰、因、果、いふく、
 入、り、て、必、入、報、と、云、曰、因、果、いふく、いふく、

小多りの時ハ必も心とりんく又も其と其
 ぬ小一切の因果ハ唯人の心よつてさるるい
 互躰よるるさるる彼梅実の縁と待たる
 ぬに白人目人の心わやくる人の心微し
 多し。同日因果もゆと難しといふ今此
 中宮よつてなる惣妻ハ法皇と又入る相
 因よつて奉る人ハ中宮小付なる
 如何。房曰。それ因果の政事なるもさるる一
 わりして其ハ必弱うと使しとて。乃中宮の
 御惱争入るの苦しくあつて入りしや。お
 しのと弥よるるなるの苦小為況つてさるる

る。されどもや愚人因果歴然の程
 るとさるるとも報の事なるも乃時ハ
 ち能罪ハわつて思つるもぬ小又さる
 忽るりといつて終よも報と多し。あつ
 わつたる小多るひるさるるさるる
 やぬ小未代の人入り程と見しと未
 りと守。因果といふさるる
 門の宰相中宮入り。小付く鬼男の
 婦人の生妻。新大納言の死妻。あつて申す
 ぬひ。小松殿よつてさるるさるる。又禪
 門よ。此をさるるさるる。鬼男が竹の流

教とて後小龍とゆふとらんとてさうさうの時
龍の重きとて使てさう。教しする程女
ふけきぬ小末世に是とりちるんと欲せ
しんも時代の政の善悪と動んく。能く
政とゆふさあてふんさあ。次小龍帝の
教をし行へり。政のさうさうとゆふ
西のよあも時ならうさう考眼しし
天神地祇し糾交かり。まよとゆふ。喟今日
百人の刑人としてさうさうして下
の政に
刑人の多き。是さうさうの政に
さうさう

ぬ小犬若小りつさ小若よかりさう
さう理よりの時。今人の世若人の教
さうさうと悟り

定擧

御免の使基康。後竟小許状と後さう
悪く。後竟信がさう。教史あさうさう。少将
の被小さうさう。又大細言版のさうさう。様
叛ぬさうさうにぬぬれぬ。のさうさう。思
ひさうさう。さうさう。さうさう。人
小被さうさう。平氏人の重恩とさうさう。逆心
と企りさうさう。さう龍人小さうさう。さうさうの上

平氏手本

使の見さうんぞうおしそ。お心と失ふもさう
 詞と出さるる。入る人々取捨し給ひま
 後寛がうもさう。さうよわさう。入使
 初よ多く。時入次方とさう。時入使
 へ嘆し。受のさう。入さう。小申し。部と
 とも入。時と受。さう。さう。入。愚者と語
 合さう。とゆ。さう。法。入。入。和。守。多し。
 後寛。信。入。さう。自。害。と。さう。可。う。さう。
 し。さう。越。共。と。起。戦。ひ。の。越。の。軍。員。と。
 入。の。為。よ。さう。さう。越。王。忠。臣。の。諫。よ。随。て
 死。と。後。で。と。命。と。金。と。と。石。林。と。掌。給。ひ

て終ふもさう。とひる。さう。さう。大功と存
 時。後。寛。と。命。と。金。と。と。可。う。さう。と。それ
 入。人。も。さう。の。命。と。さう。と。未。代
 の。辱。と。の。さう。の。口。惜。し。と。後。寛。が。詞。死
 多。さう。さう。さう。鼓。梁。傳。日。人。の。人。さう。所。の。者
 入。言。し。人。も。さう。さう。さう。何。と。さう。て
 人。と。さう。と。さ。取。小。言。行。謹。む。ん。は。さう。と。と
 御。産。卷
 後。程。小。中。宮。の。り。の。り。と。さう。と。さう。と。御。産
 平安。の。さう。の。小。さう。と。さう。と。さう。傷。さう。傷。大。小。之
 神。等。家。の。秘。法。と。傳。り。り。の。如。来。法。也。し

御産卷

錦帳にしんていの御座みまゐりて千手せんじゆ経きやうととりらあがりく
あまあまさされけりけりて

評曰ひやういふ。神代かみよの神記かみよのしんきより地神ぢしん五代ごだいの聖王せいおう

うらやまをとりて天あまと保たもつるも曆代れきだいの神記かみよのしんきよりけり

聖せいの制せい誠まこと小この世よと治ちの世よありけり

代々の帝王たいおう何いかんも仁勇にゆうの三徳さんとくと旨しらす

表あらわして三種さんしゆの神かみ照てとくは是こゝの天あま

者もの小命こみことと天下あまのくに又また是こゝ者ものと貴たかき王道わうだうのは

要もとみ神かみとありて大庭おほのにわの礼義れいぎ小この

後のち果はむの美うつくしきとありて今王いまのきみ五代ごだい孝昭かうしやう二十五年

小この紀伊きい國くに小この熊野くまの権現ごんげんと宗むねありて

未いま先例せんれいとありて大おほの御座みまゐりて

代よ欽きんの天皇てんかうの御座みまゐりて今王いまのきみ五代ごだい孝昭かうしやう二十五年

神祇かみき自よ衰疲せうひとありて

怪あま虚あやと實まこととありて

皆みな出家しゆがの御座みまゐりて

時ときより中なかつより今更いまさら入いり中なかつ御座みまゐりて

大おほの御座みまゐりて

あまあまさされけりて

あまあまさされけりて

平家平林

十一

家の世にぬづさうなる一しむりや雲霧如く
をらりよごりぬりや。さきりく佛法と誇
に破よはうらむと佛法と相のりやとあど
如まの心とまど經文行迹よとる射ハ梁の
武帝の佛法ともむりまらぐはしは是末
代の聖者よりし智者のよむしあきされん
やま御誕生の時よ。小生入大信達入夫
と射あふ時よ清心の天照大神入るに
あふとく天地に方と射終るの心より人への言
とりとくをさとあるら。お小大相國入道等の
或はうらぐらうらむ。或喜ほし。あふらむ。

るを評す。に思ふ。喜ぶ。時小嘆。喜嘆し申す。た。入。日。生。を。あ。ひ。く。実。の。う。け。さ。と。あ。さ。し。め。あ。ふ。と。り。の。て。あ。下。くの。の。時。よ。あ。ら。ま。下。の。者。出。と。ま。る。る。第。一。の。天。第。二。の。時。の。聖。人。第。三。の。人。賢。人。第。四。の。小。時。の。人。い。ろ。へ。一。あ。く。小。古。今。の。良。將。賢。力。と。用。の。勝。負。の。ま。ま。と。傳。や。て。ん。の。謀。よ。あ。ら。ま。と。用。の。終。敵。と。七。と。ま。る。を。
ん。第。抄
平大の。人。時。忠。の。方。御。乳。よ。ま。あ。れ。け。り。の。時。法。皇。還。御。の。前。の。車。と。ま。る。れ。一。變。

評家平木

より方便ありて先仙法とて云ふ小信にて
次は神と用ひて行はるる方便ありて
亦く今教はるるに凡仙の方便とて
本意と悟ふに清盛問曰り云く凡仙の方
便覺錢曰西より十萬億土小仙なりと説
く云く云。是は方便也。法華經に曰りて曰。本
教より小仙なりと云く人と思
はるるは凡て思ふに云く云く或は
云愚癡暗鈍の凡夫に已ありて仙と示
すも云く信じて云く云く教より云く
云と云く外より云く云く云く西
方と念

一は愚鈍の者も心とて云く云く念
する時
小信より即ち云く云く云く云く
導方便小信とて云く云く悟の
あ小西方より云く云く見時
ハ金佛小信とて云く云く云く
云く云く入るる便と云く云く
云く云く時小信と云く云く
大塔建まると云く云く云く
頼嘉

白河院の御右皇子中宮の御腹小皇子より
云く云くと嘆息云く云く云く三井寺に有る
云く云く

五平林三

事あるゆりしや。みよ。頼高のり。二世の利欲と
 のぞかれ。ふし。し。と。戒壇建立のり。し。の
 傍。わ。し。帝。の。山。門。の。り。又。理。と。書
 さ。ま。宮。下。の。時。一。夫。の。聖。主。の。宮。下。か
 何。が。ま。よ。背。び。ん。や。縦。頼。高。の。り。と。通。給
 ぶ。か。ま。い。ま。経。え。ん。と。し。一。夫。の。名。の。虚
 言。と。ま。よ。の。り。付。は。是。末。代。の。誤。し。云
 又。ま。入。人。の。心。得。し。と。の。り。思。入。べ
 さ。ま。古。人。曰。天子。ふ。し。の。り。言。ま。う。く。縁
 言。け。の。り。と。ま。よ。ぬ。山。後。世。の。者。南。産
 の。傍。ま。ま。の。り。と。ま。よ。の。り。の。約。束。と。作

出。ま。う。く。又。頼。高。阿。闍。梨。し。仏。の。本
 意。と。ま。よ。の。り。人。也。い。ん。と。ま。よ。の。り。佛。の。迷。の
 者。ま。よ。の。り。生。死。の。苦。界。と。ま。よ。の。り。め。浄
 土。の。り。入。れ。つ。ま。よ。の。り。極。の。り。誓
 約。と。ま。よ。の。り。教。と。ま。よ。の。り。と。ま。よ。の。り。い
 かり。ま。よ。の。り。或。立。方。の。大。念。と。ま。よ。の。り。佛。の。信
 宗。家。の。り。功。徳。と。ま。よ。の。り。と。ま。よ。の。り。説。法。の。り
 是。ら。の。り。魚。と。ま。よ。の。り。釜。の。り。と。ま。よ。の。り。佛。の。り
 末。世。の。り。人。を。ま。よ。の。り。と。ま。よ。の。り。ひ。の。り。奥
 と。ま。よ。の。り。と。ま。よ。の。り。佛。法。と。ま。よ。の。り。人。の。病。と。ま。よ。の。り
 子。と。ま。よ。の。り。金。ぬ。の。り。と。ま。よ。の。り。し。り。言

多し於小頼嘉壽一りたりと満ちたる
 めと懐ちるの一生とひるくあせの
 あしと人の怨美とみるに終りいしんぞ
 是まのしとの仙々と知人とせんや是と
 小糸外なるらむらひと頼嘉壽より
 官位財祿とわらむと戒増建立のりし珠璣と
 云々云々のいふや又入るに於嘉壽の心中小
 ろつて又仙法守護の心得しむらぬ。是故
 小智見とりと評とくんぐらふ
 少将都還

正月下旬、丹波の少将、經平判官、康頼、今
 二入つて、肥前國鹿嶋庄と云く都へといふ
 此の後、和の思、酒よ着、あられ、と又、大知言
 比、後、和の思、酒よ着、あられ、と又、大知言
 康乃、和の思、酒よ着、あられ、と又、大知言
 爲つて見、和の思、酒よ着、あられ、と又、大知言
 と、和の思、酒よ着、あられ、と又、大知言
 二人、墓のあられ、と行、和の思、酒よ着、あられ、と又、大知言
 壇とつて、前、小假屋と、和の思、酒よ着、あられ、と又、大知言
 經書と、和の思、酒よ着、あられ、と又、大知言
 提、和の思、酒よ着、あられ、と又、大知言

二月下旬、丹波の少将、經平判官、康頼、今
 二入つて、肥前國鹿嶋庄と云く都へといふ
 此の後、和の思、酒よ着、あられ、と又、大知言
 比、後、和の思、酒よ着、あられ、と又、大知言
 康乃、和の思、酒よ着、あられ、と又、大知言
 爲つて見、和の思、酒よ着、あられ、と又、大知言
 と、和の思、酒よ着、あられ、と又、大知言
 二人、墓のあられ、と行、和の思、酒よ着、あられ、と又、大知言
 壇とつて、前、小假屋と、和の思、酒よ着、あられ、と又、大知言
 經書と、和の思、酒よ着、あられ、と又、大知言
 提、和の思、酒よ着、あられ、と又、大知言

評曰。女經孝の志。かりき。あつて。人。い。う。あ。ん
 の。あ。ら。し。む。し。妻。子。と。も。も。し。お。う。り。し。さ。て。
 よ。あ。ら。れ。二。し。い。た。わ。ゆ。し。ん。時。死。か。親。
 の。墓。所。小。日。う。い。と。送。信。さ。借。書。と。り。て。ま。ま。
 て。か。ま。と。惜。つ。ま。も。あ。れ。ぬ。へ。し。行。時。も。急。
 め。し。く。ま。ら。さ。さ。り。し。少。さ。あ。つ。て。ま。ま。思。ふ。
 念。ふ。し。十。日。よ。及。ま。ま。を。し。り。か。り。ま。た。父。の。墓。に。
 よ。日。を。と。と。し。も。せ。り。ま。も。し。御。小。ま。ま。切。り。
 へ。し。も。ま。ま。し。え。る。志。か。り。し。ま。も。し。が。ぬ。小。他。
 少。し。し。自然。と。此。人。と。り。ま。も。し。ま。道。と。
 憲。と。施。し。給。ふ。よ。あ。ら。し。く。心。外。よ。も。ま。く。

し。ぬ。治。し。と。ゆ。り。し。ま。ま。あ。り。の。ぬ。小。人。と。
 し。し。し。し。し。孝。行。と。あ。ら。し。む。ま。ま。孝。
 と。ま。の。の。あ。ら。し。む。全。銀。衣。食。と。ま。ま。物。
 何。し。し。し。し。お。志。の。信。実。と。り。ま。ま。あ。れ。た。
 ら。よ。末。世。の。人。の。あ。ら。し。む。孝。行。と。ま。ま。ま。
 なる。と。し。し。人。世。よ。ま。ま。し。得。ま。ま。全。銀。と。
 り。ま。ま。孝。行。と。ま。ん。し。思。ふ。人。の。富。士。山。と。
 削。よ。ま。ま。し。し。あ。ら。し。む。と。ま。ま。あ。ら。し。む。
 孝。行。と。の。ま。ま。し。し。あ。ら。し。む。と。ま。ま。あ。ら。し。む。
 り。と。ま。ま。あ。ら。し。む。に。あ。ら。し。む。と。ま。ま。あ。ら。し。む。

小わらふと。りりめし先行^{まひ}あしとくごががと心
 とりりくあつと書^つし。譬^{たとへ}も身忍^{みじみ}友
 小きくしりし。親^{おや}必^{かならず}是^{こゝ}とくし。いかに
 とりし時^{とき}。親^{おや}是^{こゝ}と制^まも。ち職^{しやく}と怠^{おろそか}い
 親^{おや}是^{こゝ}と怒^{いか}子^こ病^{びやう}と生^なる時^{とき}。父母^{ふぼ}是^{こゝ}と多^{おほ}し
 ぬ小^こ已^{おほ}がめと正^{ただ}し。時^{とき}。親^{おや}是^{こゝ}とよ。う。ふ
 親^{おや}よ。金銀^{きんぎん}衣^い食^{じき}とあ。う。く。と。ひ。り。し。は。親
 の心^{こころ}と使^{つか}。り。り。ん。ぐ。あ。ぐ。う。う。ゆ。ん。小^こ孝^{かう}
 と行^いの。大^{おほ}意^い。い。親^{おや}の心^{こころ}と。う。う。う。う。う。
 て。父^{ちち}母^{はは}の。歎^{なげ}。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。
 ぬ。よ。先^{まづ}己^{おのれ}が。め。と。り。り。く。あ。め。と。先^{まづ}う。

次小金銀衣食の行りよ。後^{ちご}くわ。る。も。ぬ。
 も。り。と。し。く。中^{なかつ}と。も。り。と。る。時^{とき}。い。は。し。
 意^い。定^{じやう}の。う。し。あ。よ。も。り。と。る。意^い。者^{しや}行^いの。う。と
 と。あ。う。う。ぬ。小^こ末^ま世^せの。人^{ひと}。へ。す。り。あ。よ。心^{こころ}と
 う。う。う。孝^{かう}学^{がく}の。乃^のと。身^みの。し。ぬ。
 五^ご下^げ
 孝^{かう}程^{じやう}小^こ鬼^き界^{かい}。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。
 入^い。と。と。く。お。へ。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。
 の。と。の。こ。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。
 て。あ。う。布^ふの。も。え。や。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。
 う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。

くむひつりけりと書し五とちりりの鬼界が
の流人しりや既に入るともこのうらまひを
辨に行ひおしりし我主の御心もあらうと
と人いぬれに罪なりとて八幡山妙光
の御堂に参りしやとて悪し帯ひてんが
うらまひをいりしに赦免をうらまひ
とていふにこれに傍如の御娘の御心なり
とていふにこれに傍如の御娘の御心なり
とていふにこれに傍如の御娘の御心なり
とていふにこれに傍如の御娘の御心なり

世に世に書くと云ふはけりしと云ふと云ふ
とていふにこれに傍如の御娘の御心なり
とていふにこれに傍如の御娘の御心なり
とていふにこれに傍如の御娘の御心なり
とていふにこれに傍如の御娘の御心なり
とていふにこれに傍如の御娘の御心なり
とていふにこれに傍如の御娘の御心なり
とていふにこれに傍如の御娘の御心なり
とていふにこれに傍如の御娘の御心なり

肺と換か。平臟へいぞう自虛弱じよじやくうしく。氣血不順きけつふじゆん。
 外邪げいじやと待まち。心風しんぷう。
 下したの凡たゞぬ時とき。
 人ひとの政まつりごと。
 地ちの氣運きうんと按時あんじ。
 小聖せうせい人の御代ごだい。
 天下てんか小大せうだい凡たゞ大雨おほいなるあめ旱魃かんぱつ。
 地ちの氣運きうんの盈虛えいこ。
 地ちの理ことわり。

天地てんちと人ひとと害がい。
 全ぜんて地人ちじんをくく。
 天地てんち久く。
 小せうハ。
 入いぬ小せう人じん。
 安やす。
 小せう樂らく。
 心こころの。
 經きやう曰いは。
 小せう居い。
 長ながく。
 危あやう。

ふもくたてがらも満ちりしつと晴るも
橋と長いづつ時あれどいんぐを結ぶるこれ
はなりんやふれど一つ時王は物くつとわら
ま家も戒と得と天下と徳よりのしげぬ
とつりのふもくたて時つらとあつとに堆ま
りてま下の撰政候とつらめつ一人よと
まどりの位位ふらとるま堆くぬぬの
ぬよ切りのつ上も通どくつぬよ世の政
ふゆつとつと世上りぬと王法とつとつ上
と理ト皆よのつと所とよ物歎ぬらつと
ちぬどとと制むんが為よ恩と厚し位と

いま家とつらとるぬよ小ま家も威光とつ
くくま又とつ功と貴とつとつとつハ威ハ大
同白くつ位位よ理とつとつとつとつとつ
又彼ま家とつとつとつとつとつとつとつ
つらとつとつとつとつとつとつとつとつとつ
とぬぬとぬよま世の武將とつとつとつとつ
まとつとつとつとつとつとつとつとつとつ
とつとつとつとつとつとつとつとつとつ
とつとつとつとつとつとつとつとつとつ
とつとつとつとつとつとつとつとつとつ
とつとつとつとつとつとつとつとつとつ
とつとつとつとつとつとつとつとつとつ
とつとつとつとつとつとつとつとつとつ

法にあらざるを代へ小笠原流を
よりとらへて世へ礼をうるをいふこと日む
て礼と失はれぬがへに何はなるかといふ
夫れも多し人のあはれと云ふをうかす小
やりのもとにあはれなりあるを延在 天暦
の形ともいふは少しもいふ小はかりの物
と云ふも又その儀と云ふもと云はれり
いふは礼と云ふのあはれと云ふもいふは
その形ともいふは少しもいふはかりの
すぬくの流よむは却て礼と云ふもいふ
多し其れに世へ主より名は礼なりと云ふ

いふに叶はぬ。上小笠原流は是れなり
いふもや流しなりといふは又是れなり
礼ハ天理ノ節文ト云フ。下其なり時ハ
人ト其なり。小をいふと云ふ。天下
ある時に人しめしむるなり。いふなり
いふに叶はぬ。上小笠原流は是れなり
いふもや流しなりといふは又是れなり
礼ハ天理ノ節文ト云フ。下其なり時ハ
人ト其なり。小をいふと云ふ。天下
ある時に人しめしむるなり。いふなり
いふに叶はぬ。上小笠原流は是れなり
いふもや流しなりといふは又是れなり
礼ハ天理ノ節文ト云フ。下其なり時ハ
人ト其なり。小をいふと云ふ。天下
ある時に人しめしむるなり。いふなり

平家言林 三三三

